

明日への扉

Door to Tomorrow

太鼓師

後世に鳴り響く、音を生み出す。

朝倉慶介氏



Keisuke Asakura

1990年愛知県生まれ。大学時代に和太鼓のチーム「和太鼓帯〜ZERO〜」に加入。その後、愛知県岡崎市の創業150年余の老舗「三浦太鼓店」で働き始め、現在は太鼓師として、また和太鼓奏者として修業に勤しむ。

和太鼓(わだいこ)

一説に、縄文時代に原型があったとされる和太鼓は、神事や祭礼において、また情報伝達の手段として用いられてきた。近年では伝統音楽としてだけでなく、「創作太鼓」という新たなジャンルを確立している。



時に激しく、時に穏やかに、日本人の心を揺さぶる和太鼓。縄文時代に生まれたとされ、古くから祭りや祈りを捧げるときに重要な役割を果たす、わが国固有の打楽器だ。

朝倉慶介さんは打ち手として活躍しながら、伝統の音を未来に鳴り響かせるべく、老舗の太鼓店で和太鼓づくりに励む若き

職人。高校入学の際に、上級生の演奏を見たことが全ての始まりだった。

きつかけは？

朝倉「格好良くて鳥肌が立ちました。和太鼓にこんなことができるのかと衝撃を受け和太鼓部に入ったんです」

大学生の時、和太鼓のチームで演奏を始めると、「音」そのものに魅せられるようになった。そして、その音を世界中に届けたいという思いから在学中に、太鼓師の道に進んだ。

和太鼓づくりは、音づくりでもある。和太鼓の大きさや種類に合わせて、膜となる牛皮の部位を慎重に選び、音のイメージに合わせて厚みを整えていく。例えば高い音なら、牛皮の表面をごく薄く削ることで「スコーン」といい音を鳴り響かせられるという。

この和太鼓づくりは、あらゆる工程を自分の感覚で確かめることができるよう全て手作業で行われている。また、演奏でも自分がつくった和太鼓を叩く。それは自らつくった音に確信を持つための、さらにはより良い音を実現するための、飽くなき探求でもある。

今後の抱負は？

朝倉「完成した瞬間はいい音が鳴っても、それが長く続かなければ決していい和太鼓とはいえません。抱負は、後世に鳴り響くような音をつくり続けることです」

日本人の心を揺さぶる和太鼓の音。若き職人が生み出す音は未来でも、きつと鳴り響いていることだろう。明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。

※2016年7月取材。掲載内容は取材当時のものです。

映像ドキュメンタリー
「明日への扉」を
ぜひご覧ください。

WebやTVなどで
お楽しみいただけます。

Web版

パソコンやタブレットでもご覧になれます。
今回ご紹介した方を含め、他にも多数の若者たちをご紹介しています。

アットホーム明日への扉

検索



TV番組

ディスカバリーチャンネル(CS)
冠番組「アットホーム presents 明日への扉」放映中
毎週金曜日 22:53~23:00



ビジョン

ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中

最新号のご案内

好評公開中

No.090

博多織手機技能修士
森本 美生氏
(福岡県)